

次期計画におけるがん検診の受診率について

現行計画では、市町が実施するがん検診の受診率をがん早期発見の評価指標としているが、国のがん対策基本計画や健康日本21(第2次)が「国民生活基礎調査」を用いていることから、次期計画では、国と同じ「国民生活基礎調査」による受診率を用いることとする。

国民生活基礎調査によるがん検診受診率(対象年齢：40歳～69歳、子宮がんは20歳～69歳) 愛媛県

個別目標	平成19年調査		平成22年調査	
	男性	女性	男性	女性
5年以内に50%達成を目指す(胃、肺、大腸がんは当面40%)	32.0%	26.3%	36.2%	29.9%
胃がん	28.2%	25.3%	30.5%	27.9%
肺がん	26.3%	22.2%	27.3%	25.8%
大腸がん	—	—	—	39.8%
子宮がん	—	(23.0%)	—	(31.0%)
乳がん	—	(23.2%)	—	40.3%
				(31.9%)

※胃がん、肺がん、大腸がんは過去1年間の受診状況。子宮がん、乳がんは過去2年間(※○内は過去1年間)の受診状況。

○国民生活基礎調査の概要

調査対象	・全国の世帯及び世帯員を対象に、国勢調査区のうち層化無作為抽出した5,510地区のすべての世帯(約29万世帯)及び世帯員(約75万人)
調査時期	がん検診は3年ごとの大規模調査年のみ調査(直近の調査は平成22年)
がん検診に係る設問	過去1年間(子宮がん・乳がんは過去2年間)に受けたがん検診※健診等(健康診断、健康調査及びビロドック)の中で受診したものを含む

○21世紀における第2次国民健康づくり運動(健康日本21(第2次))

目標項目	がん検診の受診率の向上
現状	胃がん 男性 36.6% 女性 28.3% 肺がん 男性 26.4% 女性 23.0% 大腸がん 男性 28.1% 女性 23.9% 子宮頸がん 女性 37.7% 乳がん 女性 39.1%
目標	50%(胃がん、肺がん、大腸がんは当面40%) (平成22年)
データソース	厚生労働省「国民生活基礎調査」 (平成28年) ※がん検診の受診率の算定に当たっては、40歳から69歳まで(子宮頸がんは20歳から69歳まで)を対象とする。